

資料6 市民まちづくり意識調査結果の概要

I 調査の概要

(1) 調査目的

鳴門市都市計画マスタートップランの策定にあたり、市民生活の現状を把握し、地域で求められているまちづくりの方向性を分析するための基礎資料とする目的として実施した。

(2) 調査設計

調査地域：市内全域

調査対象：市内在住の満18歳以上の市民

対象者数：3,000人

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収法

調査時期

①準備期間：4月～5月

②調査期間：6月上旬～6月下旬

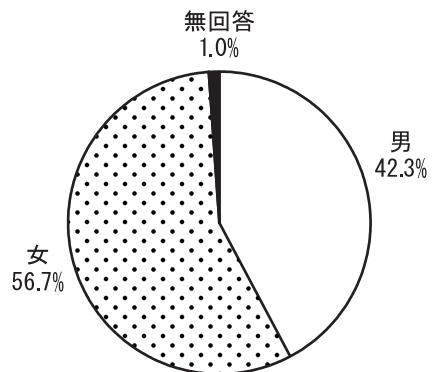
③分析期間：7月～8月下旬

(3) 回収状況

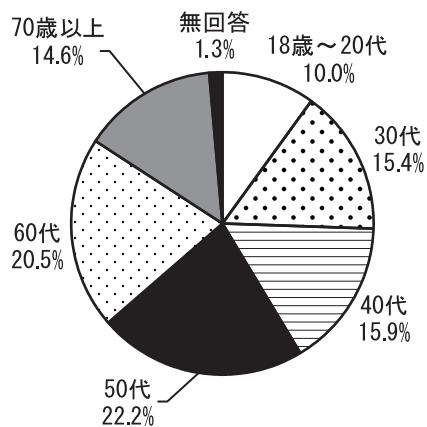
母集団(a)	標本数(b)	回収数(c)	抽出率(c/a)	回収率(c/b)	有効回答数
53,337	3,000	1,120	2.1%	37.3%	1,120

II 回答者の属性

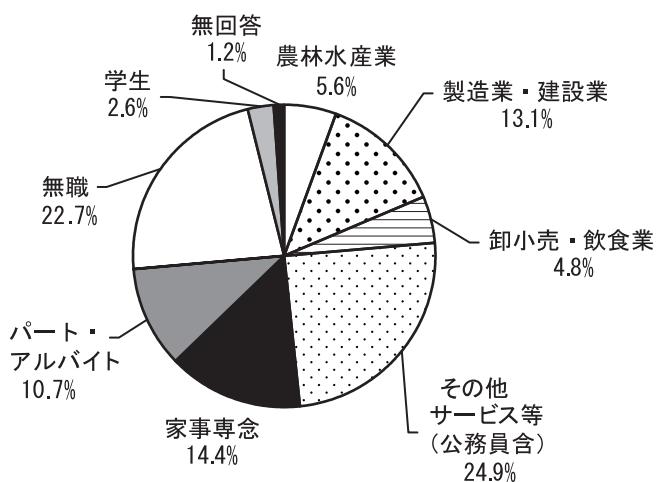
(1) 性 別



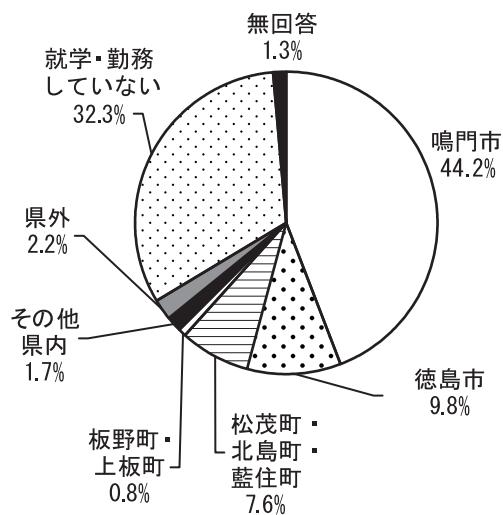
(2) 年 齢



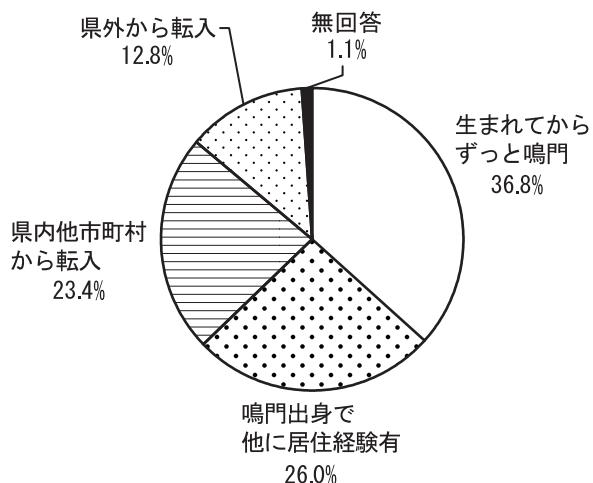
(3) 職業



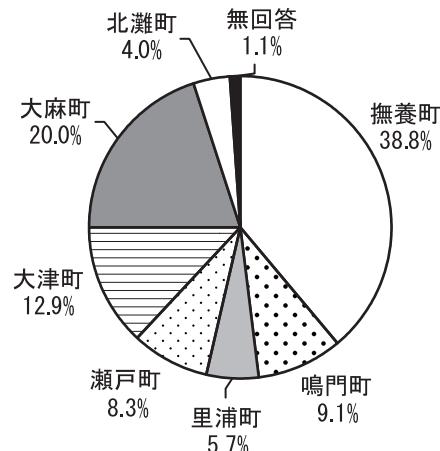
(4) 就学先・勤務先



(5) 居住歴



(6) 居住地

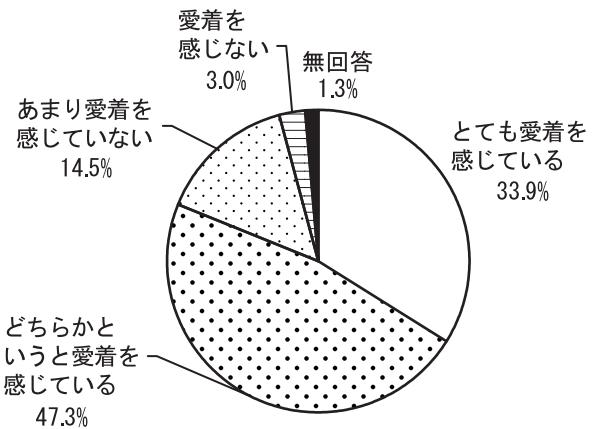


III 調査結果

(1) 鳴門市への愛着について

愛着を感じている人が81.2%、愛着を感じていない人が17.5%、市民の多くが愛着を感じている。

鳴門市に対してどの程度愛着を感じていますかとたずねたところ、愛着を感じている人（「とても愛着を感じている」と「どちらかというと愛着を感じている」の合計。以下同じ。）が81.2%、愛着を感じていない人（「あまり愛着を感じていない」と「愛着を感じない」の合計。以下同じ。）が17.5%となっており、市民の多くが鳴門市に愛着を感じていることがうかがえる。



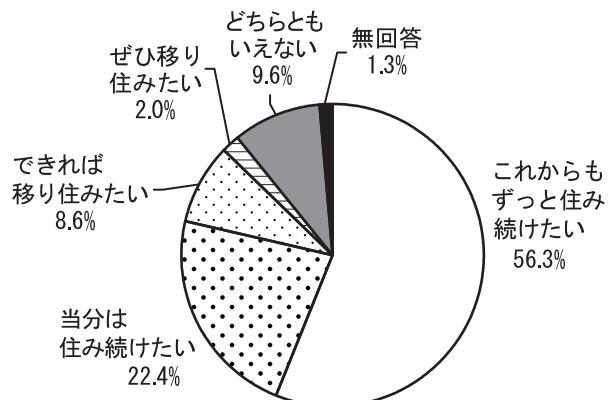
図① 鳴門市への愛着

(2) 鳴門市への定住意向について

住み続けたい人が78.7%、移り住みたい人が10.5%。移り住みたい理由の第1位「買い物が不便」。

これからも鳴門市に住み続けたいと思いませんかとたずねたところ、住み続けたい人（「これからもずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」の合計。以下同じ。）が78.7%で、約8割の市民が鳴門市に住み続けたいと考えている。一方、移り住みたい人（「できれば移り住みたい」と「ぜひ移り住みたい」の合計。以下同じ。）が10.5%、どちらともいえない人は9.6%となっている。

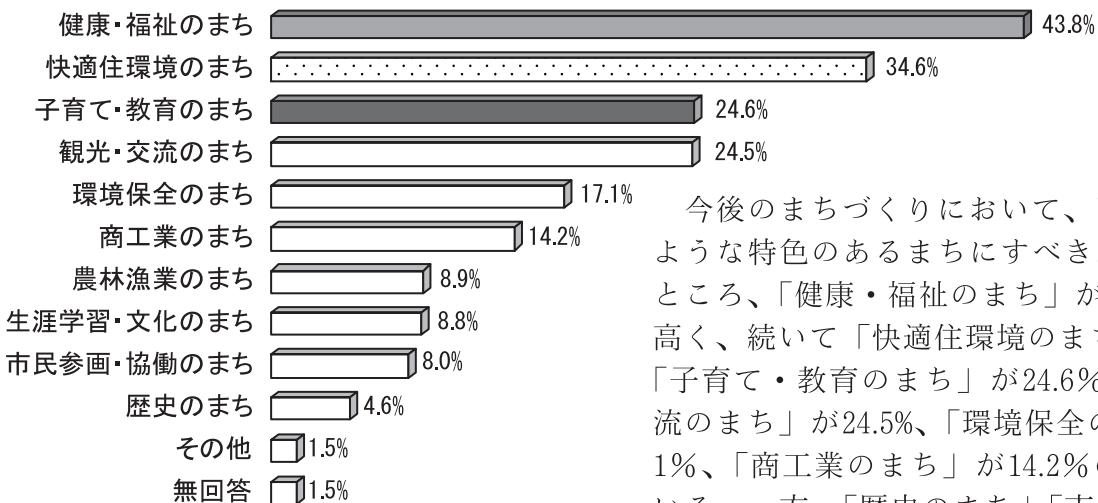
移り住みたい人にその理由をたずねたところ、「日常の買い物が不便」が34.7%と最も高く、続いて「道路事情や交通の便が悪い」が20.3%、「適当な職場が少ない」が18.6%と高くなっている、「保険・医療分野のサービスや施設が不十分」「福祉分野のサービスや施設が不十分」「子どもの保育・教育のことが心配」「スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分」と続く。



図② 鳴門市への定住意向

(3) 鳴門市のまちづくりの方向性について

「健康・福祉のまち」が43.8%で第1位、「快適住環境のまち」が34.6%で第2位。



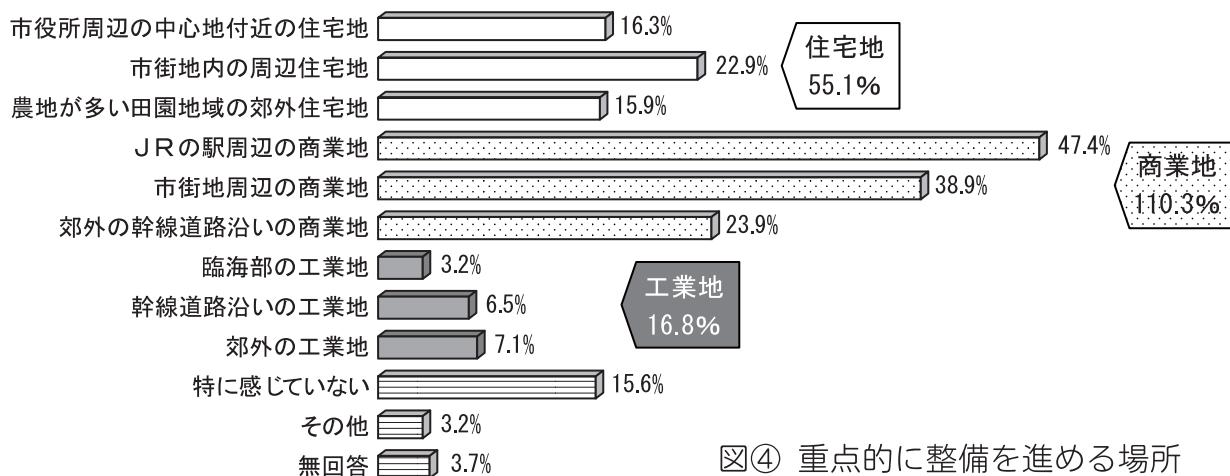
図③ 鳴門市のまちづくりの方向性

今後のまちづくりにおいて、鳴門市をどのような特色的あるまちにすべきかとたずねたところ、「健康・福祉のまち」が43.8%と最も高く、続いて「快適住環境のまち」が34.6%、「子育て・教育のまち」が24.6%、「観光・交流のまち」が24.5%、「環境保全のまち」が17.1%、「商工業のまち」が14.2%の順となっている。一方、「歴史のまち」「市民参画・協働のまち」「生涯学習・文化のまち」「農林漁業のまち」は10%以下と低くなっている。

(4) 重点的に整備を進めるべき場所

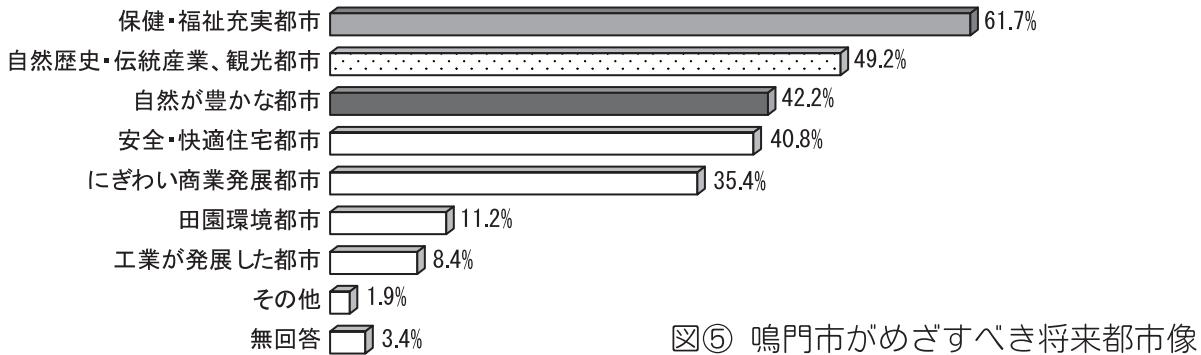
「JRの駅周辺の商業地」が47.4%で第1位、「市街地周辺の商業地」が38.9%で第2位。「商業地」を重点的に整備すべきと考える人が多い。

鳴門市の都市づくりにおいて、今後重点的に整備を進めることができると考える場所はどこですかとたずねたところ、「JRの駅周辺の商業地」が47.4%で最も高く、「市街地周辺の商業地」が38.9%、「郊外の幹線道路沿いの商業地」が23.9%、「市街地内の周辺住宅地」が22.9%の順となっている。住宅地・商業地・工業地の別で見ると、商業地をあげる人が最も多く、続いて住宅地、工業地の順になっている。



(5) 鳴門市がめざすべき将来都市像

「保健・福祉が充実した都市」が61.7%で第1位、「自然や歴史、伝統産業を生かし、観光客が訪れる都市」が49.2%で第2位。



鳴門市がめざすべき将来の都市像としてどのような都市イメージがよいと思うかとたずねたところ、「保健・福祉が充実した都市」が61.7%と最も高く、続いて「自然や歴史、伝統産業を生かし、観光客が訪れる都市」が49.2%、「自然が豊かな都市」が42.2%、「安全で快適な住宅を中心とした都市」が40.8%、「にぎわいのある商業の発展した都市」が35.4%の順となっている。「田園環境に恵まれた都市」、「工業が発展した都市」は低くなっている。鳴門市という広い範囲でまちづくりを考えると、「観光」や「商業」といった、にぎわいや活力のあるまちをめざすべきという意見が多くなる傾向がある。